

2. 活用を促す

あまり使われていない公共空間は、使いかた次第でアクティビティ（人間の活動）を誘引し、まちを活性化する可能性を秘めています。ここでは公共空間の「活用を促す」取組をとりあげます。

公園を中心とする公共空間のオープンスペース性を活かし、新たな制度によりアクティビティを誘引してまちへもしみ出そうとする様々な取組があります。空間そのものへのアプローチではなく、アクティビティを空間へと落とし込むための間接的な手法が特徴的です。

ここでとりあげる事例は、まちの魅力づくりや空間の利用促進等を求めて実施されるものであり、地域や人に根づかせるには継続的な利活用が必須です。このため、管理者と利用者、利用者と支援者、民間と行政、地域と住民、みどりと人など、人と人、場と人のつながりを醸成することが肝要です。これらの事例には、場と人をつなぐ挑戦的なアイデアが光っています。



「活用を促す」目次

カシニワ制度	25
パークイノベーションの推進に向けて(足立区)	27
下北沢ケージ	29
NPO 法人 NPObirth パークコーディネーター	31
練馬区農の学校	33
農園付公園.....	35
枚方宿くらわんか五六市(枚方市駅一枚方公園駅間)	37
公園レンタルクラウドサービス	39
EAT LOCAL KOBE FARMERS MARKET	41
parkrun (パークラン)	43



カシニワ制度

オープンガーデンの登録で街のみどりの創出と交流促進

所在地	千葉県柏市
主要部面積等	—
事業主体	柏市都市部住環境再生課
おもな用地	樹林地、空き地、等

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○市民団体等が手入れをしながら主体的に利用しているオープンスペース並びに一般公開可能な個人の庭を「カシニワ＝かしの庭・地域の庭」と位置付け、カシニワへの関りを通じて、みどりの保全・創出、交流の増進、地域の魅力アップを図っていくことを目的とした制度。

【契機】

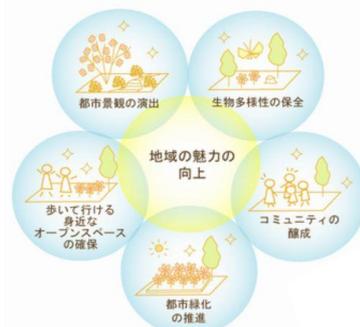
- 近年、産業構造の変化や高齢化の進展等により、適切に管理がなされない土地(空閑地)が散見されるようになり、不法投棄の温床となり害虫が発生するなど、治安や景観の悪化による地域活力の低下に繋がることが懸念された。千葉県では、2003年に「千葉県里山条例」を施行し、森林整備を希望する土地所有者等と里山活動団体が里山の保全、整備及び活用に関する協定を締結し、森林の間伐や環境教育、自然観察などを行う取組に対し県が認定するものとして「里山活動協定制度」を設けた。この流れを受けて、柏市でも2006年から「里山ボランティア入門講座」を開き、講座の卒業生が里山保全活動を行う取組を開始する。
- こうした取組をさらに推進することをねらいの1つとして、2009年に「柏市緑の基本計画」の改定を契機に2010年からカシニワ制度が運用開始された。2018年からは「柏市立地適正化計画」が策定されたことに伴い、都市のスポンジ化対策を進めるツールとして活用されることとなった。担当部署を公園緑地課から住環境再生課へと変更し、「緑」に限定されず広くまちづくりの中での活用が期待されている。

【経過】

- 2003年 山活動協定制度を定める
- 2006年 里山ボランティア入門講座を開き、講座の卒業生が里山保全活動を行う取組を開始
- 2009年 「柏市緑の基本計画」の改定
- 2010年 柏市全域を対象としてカシニワ制度の運用を開始
- 2011年 柏市の外郭団体(一財)柏のみどりの基金より交付されるカシニワ制度助成金が開始
- 2013年 カシニワ・フェスタを開始
- 2014年 カシニワ・スタイルを開始
- 2018年 「柏市立地適正化計画」を策定
- 2019年 カシニワ講座を開催

【現況】

- カシニワ情報バンク登録件数は、土地情報 100件、団体情報 59件、支援情報 22件、カシニワ(オープンガーデン)登録数 73件、地域の庭 72件(登録されていないが、公開されている庭がある)、累計総数 326件である。(2019年3月31日時点)
- 毎年5月に市内のカシニワを一斉公開する「カシニワ・フェスタ」を実施している。
- オープンスペースの活用にあわせて空き家の活用も応援していくため、空き地を地域資源として活用する手段となる制度「カシニワ・おにわ」と空き家や空き店舗等の活用を促進する「カシニワ・おうち」を行っている。

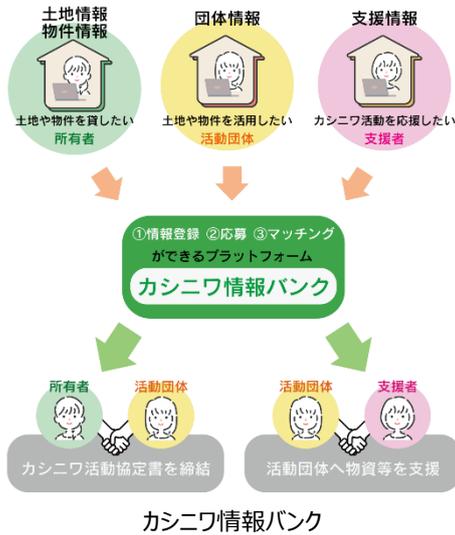


カシニワ制度の目標

【事例の特徴】

○カシニワ情報バンク

里山や空き地等の土地を管理してもらいたい土地所有者と、土地を整備活用したい市民団体等を市がマッチングする仕組みである。使いやすい制度とするため、土地・団体等の登録制限をほとんど設けていない。



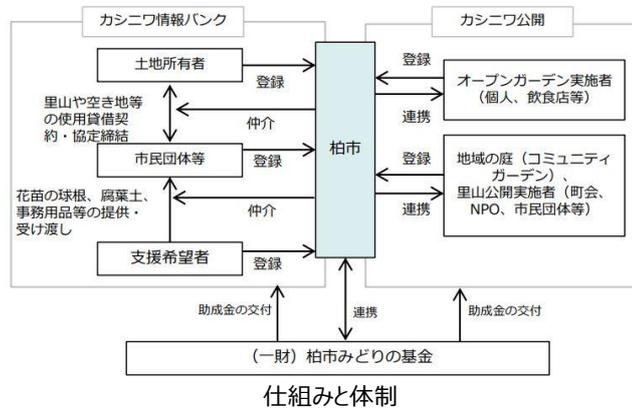
○カシニワ公開

一定期間の公開を条件に土地を地域の庭(一般市民が観賞・利用可能)やオープンガーデン(一般市民が観賞可能)として市に登録し、市がホームページなどで周知を行うことで活用を促す仕組みである。



○カシニワ制度の仕組みと体制

柏市は土地所有者と団体、支援希望者、オープンガーデン実施者、コミュニティガーデン、里山公開実施者などの情報を管理・公開、登録者をマッチングする役割を担っている。土地の管理は、土地所有者と団体との間における土地利用協定に基づくため市は実施しない。



○カシニワ制度助成金

カシニワ制度では、カシニワ公開に登録している個人または団体に対して、一定の条件のもと「カシニワ制度助成金」を交付し、その活動を支援している。交付にあたり、カシニワ公開（オープンガーデン・地域の庭・里山）への登録が必要である。

<p>個人 活動助成</p> <p>日常の活動に必要な物資等に関する費用の一部を助成する内容です。</p> <p>個人 主要経費（花苗・肥料など）施設賠償責任保険料 ※最大3万円</p> <p>団体 苗木等購入費、用具等購入費、用具賃借料、その他活動費 ※最大30万円</p> <p>上限 8/10</p> <p>受付期間：3月～12月末日 （個人は4月～2月末日）</p>	<p>個人 資格等取得助成</p> <p>チェーンソーや刈払機に関する資格取得費用の一部を助成する内容です。</p> <p>個人 ①チェーンソー作業従事者 特別教育講習 ②刈払機取扱作業員に対する安全教育 ※最大1万円/お一人様1回まで</p> <p>上限 5/10</p> <p>受付期間：4月～2月末日</p>	<p>個人 緑化助成</p> <p>基盤整備助成</p> <p>活動地の植栽費や基盤整備等に関する費用の一部を助成する内容です。 ※最低10年の土地借借が必要。</p> <p>個人 植栽費、撤去費 ※最大30万円</p> <p>団体 植栽費、基盤整備費、施設整備費、撤去費 ※最大200万円</p> <p>5/10以上</p> <p>受付期間：毎年9月頃</p>
--	--	---

カシニワ制度助成金の内容

【参考資料】

柏市役所 HP「カシニワ制度について」『カシニワのすすめ』（パンフレット）、カシニワ制度 HP

パークイノベーションの推進に向けて(足立区) 「魅力ある地域の公園」と「持続可能な公園運営」を目指す

所在地	東京都足立区
主要部面積等	229.61ha (2016年4月現在) (区立公園・児童遊園 総面積)
事業主体	足立区都市建設部みどりと公園推進室
おもな用地	都市公園等

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○区立公園・児童遊園(491 箇所)を「にぎわいの公園」と「やすらぎの公園」に大きく分類し、だれもが「お気に入りの公園」を見つけられるように、足立区の公園を変えていくための取組み。持続可能な公園運営を目指す。

【契機】

○足立区は区立公園・児童遊園合わせて 491 箇所、約 230ha あり、総面積は 23 区で 1 位(2016 年 4 月時点)である。これらの公園では、「個性の乏しさ、公園施設の偏在、一斉に迎える改修時期への対応」の 3 つの課題を抱えている。

○足立区ではこれらの課題に対応するために「足立区パークイノベーション推進計画」を策定した。この計画は、2020 年 12 月に策定した「足立区緑の基本計画」に統合され、施策の 1 つである「公園の魅力向上と持続可能な管理」として運用している。

【経過】

- 2011 年 あだち公園★いきいきプランを策定
- 2013 年 「パークイノベーション」として取組開始、モデル地域の公園リニューアル実施
- 2018 年 足立区パークイノベーション推進計画を策定
- 2020 年 第三次足立区緑の基本計画策定
- 2021 年 足立区基本計画改定版策定

【現況】

○モデル地域では公園のリニューアルが実施されており、竹ノ塚駅南東地域では 8 箇所、青井駅周辺地域では 10 箇所、舎人駅周辺地域では 9 箇所のリニューアル工事が完了している(2020 年 8 月時点)。また、モデル地域以外の公園においても、パークイノベーションの考え方に基づいてリニューアルが実施されている。



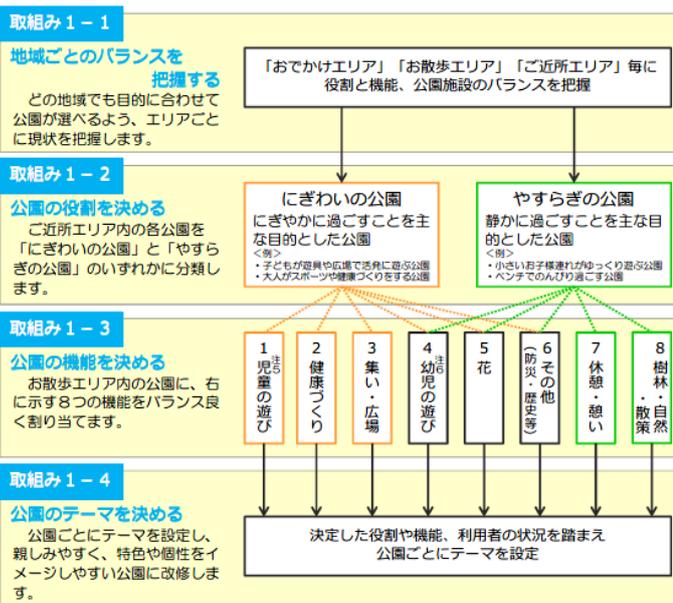
リニューアルオープンのお知らせ

【事例の特徴】

○目的に合わせて選べる公園整備

「個性に乏しい」「公園施設が偏在している」の課題に対して1つの公園ですべてのニーズに応えるのは困難なため、公園が多い足立区の強みを活かし、一定エリア内に点在する公園ごとに、それぞれ「役割」と「機能」を割り振り、個々の公園の性格や特色の違いを明確化している。

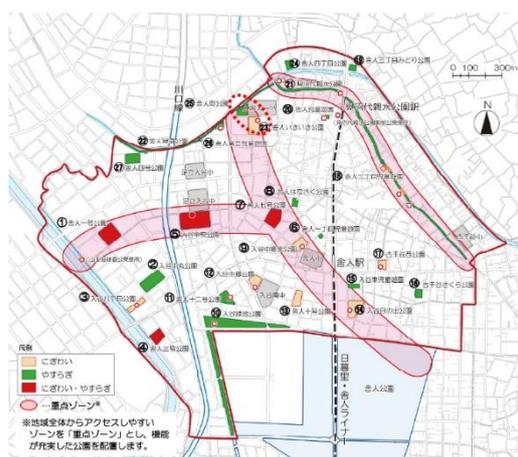
「役割」と「機能」をバランスよく割り振れるよう、公園の新設や改修時にはその公園だけでなく、都立公園も含めた周辺公園の「役割」と「機能」を把握したうえで設計を行っている。さらに、既存公園の改修については公園の愛称や現状の使われ方も尊重している。



「目的に合わせて選べる公園整備」の流れ

○2013年度から、モデル地域を選定し、町会やまちづくり推進員、スポーツ推進員、保育園の関係者など、公園を利用する多くの住民との地域懇談会を通じて、意見を聞きながらモデル地域における計画を進めた。「持続可能な公園運営」に加え、近接する公園同士で役割・機能を分担することにより、「魅力ある地域の公園づくり」を目指している。

○舎人駅周辺地域は散策に適した公園が多く、西側は区画整理によって生み出された緑豊かな大きな公園、南側には広大な都立舎人公園が隣接している。この特徴を活かして、①緑豊かな敷地を活かした外遊びができる整備、②親水水路や緑道と近接する公園の相互利用の促進。この2つを柱として整備を進めた。



モデル地域（舎人駅周辺地域）における計画図

○舎人いきいき公園(にぎわい)と舎人町公園(やすらぎ)のリニューアル

隣接している2つの公園は、同じコンセプトである「日本昔話の舞台」を残しつつ、にぎわいとやすらぎに分類し、連携をすることで世代ごとに利用しやすい公園を整備した。舎人いきいき公園は、小学生向けに整備した。例えば、特徴的な遊具を貴重な財産として補修しながら利用を継続し、多目的広場ではボール遊びができる。舎人町公園では、幼児や高齢者が過ごしやすいよう健康遊具やベンチが整備されている。



舎人いきいき公園(通称:鬼公園)



舎人町公園

【参考資料】

足立区役所 HP「魅力ある地域の公園づくり ～パークイノベーション～とは？」「足立区緑の基本計画について」『竹ノ塚駅南東地域におけるモデル地域計画』2019年7月 『青井駅周辺地域におけるモデル計画』2019年7月 『舎人駅周辺地域におけるモデル地域の計画』2019年7月

下北沢ケージ

私鉄高架下有効活用のための暫定イベントパーク事業

所在地	東京都世田谷区
主要部面積等	994 m ²
事業主体	京王電鉄株式会社
おもな用地	井の頭線「下北沢」駅付近の高架下

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○下北沢高架下で2016年夏に誕生した3年間限定のイベントパーク。屋外の約200m²のスペースをスチールのフレームとフェンスで囲った“ケージ”を設置し、照明・樹木・可動家具等を備え、街行く人々からも見える空間を有効活用した。

【契機】

○京王電鉄(株)では、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現に向け、京王沿線の拠点開発を進めていた。井の頭線の駅で渋谷駅・吉祥寺駅に次ぎ乗降客数も多く、知名度も高い沿線拠点の一つだった下北沢において、2016年6月に井の頭線高架橋化工事の一部完了に伴い、利用可能となった高架下空間を3年間の期間限定で有効活用する事業「(仮称)京王下北沢高架下プロジェクト」をスタートさせ、街の活性化や賑わい創出を目指した。

○2016年8月、「(仮称)京王下北沢高架下プロジェクト」を「KEIO BRIDGE Shimokitazawa」としてオープンした。

【経過】

2016年6月 「(仮称)京王下北沢高架下プロジェクト」スタート

8月 「KEIO BRIDGE Shimokitazawa」として、飲食店舗「ロンヴァクアン」、イベントパーク「下北沢ケージ」、時間貸し駐車場「京王コインパーク下北沢」をオープン

2019年9月 営業終了

【現況】

○併設のアジア屋台酒場“ロンヴァクアン”とともに、2019年9月をもって営業終了した。



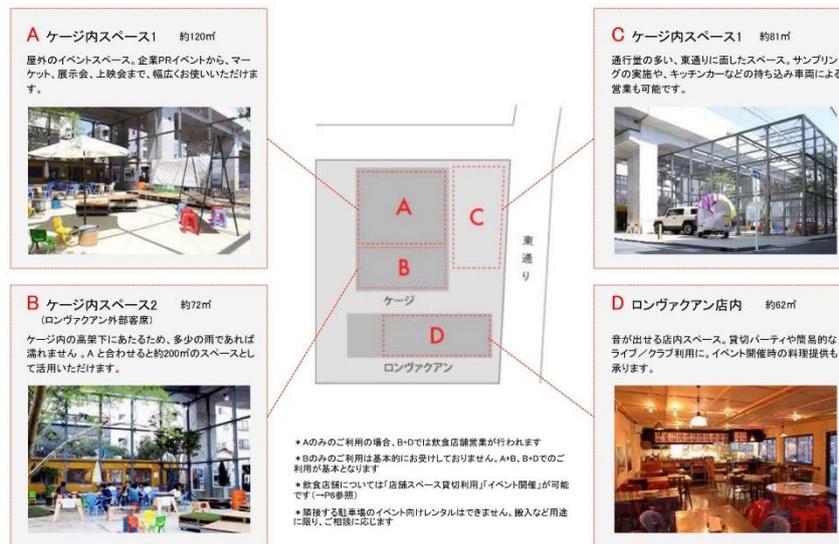
外観



ケージのレイアウトイメージ

【事例の特徴】

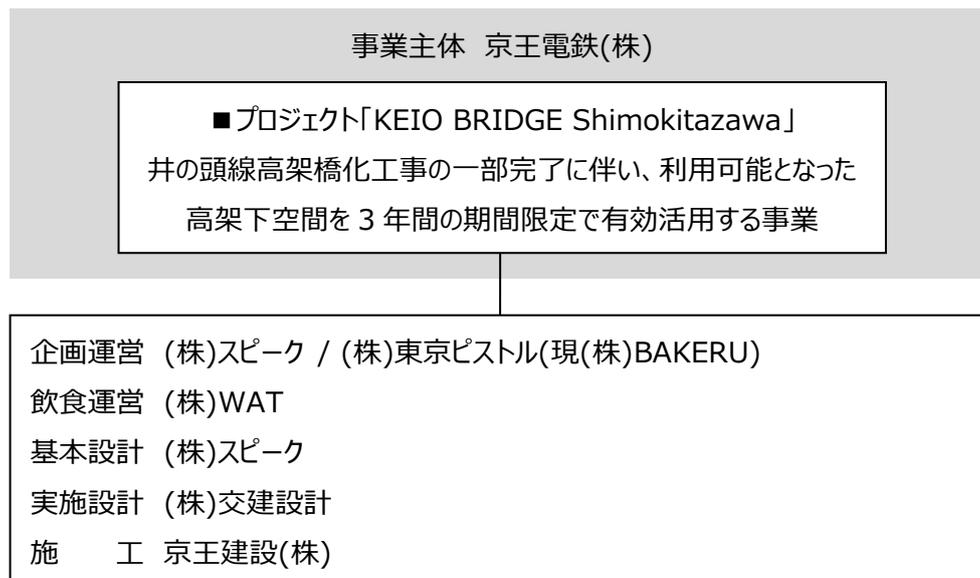
○下北南口から徒歩 3 分にある下北沢ケージは、面積 200 m²ほどのスペースを金網で囲んだ場所である。昼間は広場として開放され、誰もが自由に入出入りすることができ、夕方から夜にかけては併設の飲食店舗（ロンヴァクアン）の屋外客席、テイクアウトバーになる。また、デイマーケット・ナイトマーケットをはじめ様々なアクティビティやイベントに利用され、マルシェ、映像、パフォーマンス、企業の PR、スポーツ等の貸出を行った。



スペースの活用

○運営体制

「KEIO BRIDGE Shimokitazawa」は、飲食店舗「ロンヴァクアン」、イベントパーク「下北沢ケージ」、時間貸し駐車場「京王コインパーク下北沢」から構成され、(株)スピーク・(株)東京ピストルと京王電鉄(株)が共同で運営を行った。



【参考資料】

京王電鉄株式会社 HP、株式会社スピーク HP、下北沢ケージ HP『下北沢ケージ/ロンヴァクアンイベントスペースのご案内』2018年2月((株)スピーク×(株)東京ピストル)

NPO 法人 NPO birth パークコーディネーター

地域や市民との連携で公園づくりを行う専門スタッフ

所在地	東京都西東京市
主要部面積等	—
事業主体	NPO 法人 NPO birth
おもな用地	都市公園等

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○地域や市民との連携で公園づくりを行う専門スタッフである。公園があることで人々の暮らしが豊かになり、夢を実現するステージとして市民が公園を使いこなすために、様々なサポートを行っている。

【契機】

○市民ニーズの多様化、公園機能の多角化、少子高齢化などの社会的課題に応えるために、多方面から人材や資金、情報などを集めて調整し、活用する一連のマネジメントを担う役職が求められるようになった。
 ○NPO birth は、専門性を活かした3つのチームをつくり、効果的かつ効率的に連携を図り、人と自然が共生できる「みどりのまちづくり」の実現を目指している。公園緑地を「都市のみどりを守る」ための重要な拠点としてとらえ、都市の生物多様性を守り、人々が自然とふれあい、きずなを育むパークマネジメントを実践している。

【経過】

1997年 NPO birth 設立
 2001年 特定非営利活動法人認証
 2006年 都立公園の指定管理事業を展開、「狭山丘陵グループ(4公園)」開始
 2005年 愛知万博地球市民村出展
 2009年 都市公園コンクール管理運営部門で国土交通大臣省を受賞
 2011年 東京都立公園指定管理事業「武蔵野の公園グループ(12公園)」開始
 2014年 「東京都の緑を守る将来会議(現 NPO 法人 Green Connection TOKYO)」事務局受託
 2016年 東京都立公園指定管理事業「狭山丘陵グループ(5公園)」「武蔵野の公園グループ(8公園)」「多摩部の公園グループ(4公園)」、東京都西東京市立公園指定管理事業(53公園)開始
 2021年 都立葛西海浜公園指定管理事業開始

【現況】

○公園グループごとに、担当のパークコーディネーターを複数名配置している。(都立公園では指定管理者側からの提案で配置しているが、西東京市立公園では市民協働担当者の配置が仕様書において必須条件となっている。)
 ○公園指定管理事業として自然体験活動、環境教育、イベントなどの社会サービスの提供を行うほか、コミュニティガーデンづくり、企業のCSR活動の支援、生物多様性に関する調査研究等を行っている。

<p>レンジャー・環境教育チーム</p> <p>公園緑地の安全管理や環境保全をおこない、自然の大切さを伝え、自然を守り育てる人材を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パトロール ● モニタリング ● 環境教育 	<p>協働コーディネーターチーム</p> <p>公園緑地のポテンシャルを最大限に活かすため、行政・企業・NPO・市民の皆さんの力を集め、協働により事業を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアの立ち上げ・支援・コーディネーター ● イベント・講座等の企画・運営 ● 各種協働のコンサルティング 	<p>自然環境マネジメントチーム</p> <p>都市の生物多様性を高めるため、科学・社会・文化などの多角的な面からアプローチし、自然豊かな公園緑地を実現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性の保全管理・計画立案 ● 希少生物の保護・増殖・外来生物の防除 ● 環境政策の提言・コンサルティング
--	--	---

連携する3つの専門チーム

【事例の特徴】

○「パークコーディネーター」とは NPO birth が作った名称で、地域や市民との連携で公園づくりを行う専門スタッフである。地域連携のイベントやセミナーの企画、ボランティア活動のマネジメント、学校の総合教育の受け入れ、企業の会社貢献活動や福祉施設との連携など仕事内容は幅広く、持続可能な地域社会づくりに貢献するパークマネジメントを行っている。



パークコーディネーター

○市民とともに企画を作り上げていくためには、3段階のプロセスがある。

①公園と地域のポテンシャルを調べる

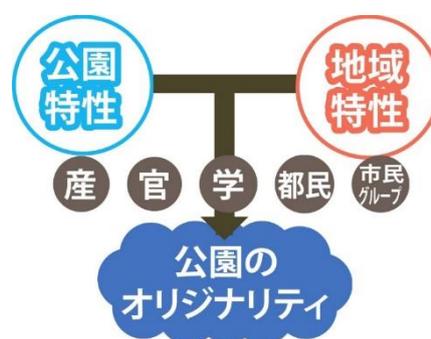
公園には特性があり、それは地域の特性と相互に関係しあっているため、把握することで公園づくりの方向性が明確となる。公園特性と地域特性を把握し、そのポテンシャルを地域のパートナーとともに引き出すことで公園の個性(オリジナリティ)が際立つ。

②公園がパートナーを求めていることを発信する

公園に係ることは楽しいことだと気づいてもらうためには、市民と公園管理者の双方が意識を変える必要がある。公園について共に考え、ともに実践するパートナーとして互いを認識するために、パンフレットや SNS など様々な媒体を活用し、多世代に情報を届ける。

③3つのステップで市民企画を実現

ネットワークを広げ、地域のニーズを拾う「アウトリーチ」活動、テーマを決めてパークミーティングを開催しテーマに共鳴した人や団体をつなぐ「マッチング」、人の輪が広がりプロジェクトチームができれば企画の実現に向けて調整する「コーディネート」を行う。



公園の個性(オリジナリティ)の創出

○「あったらいいなをみんなで作る公園プロジェクト」

公園をもっと魅力的な場所にするために、利用者が公園に「あったらいいな」と思うことを市民のみんなで考え、作り、楽しむためのプロジェクトである。子育てやアートなど市民がやってみたいテーマごとに集まり、プロジェクトチームを立ち上げ、パークコーディネーターは公園の特性やルールに照らし合わせながら、企画内容を一緒に作り上げていく。市民側のポテンシャルに合わせて役割分担をするが、主催者は公園管理者であり、許可申請や安全管理を担っている。事業費は、自主事業収入や協賛金などで賄っている。



ぶっぶフェス(武蔵国分寺公園)



Sunday Park Cafe (武蔵国分寺公園)

【参考資料】

NPO birth HP、むさしのの都立公園 HP、多摩部の都立公園 HP、いこいの森と周辺の市立公園 HP
新・公民連携最前線 PPP まちづくり「パークコーディネーター ～新たな公園マネジメントの担い手～ 第 11 回、第 12 回、第 14 回」、「パークマネジメントがひらくまちづくりの未来」2020 年(マルモ出版)

練馬区農の学校

都市農業を支える人材育成

所在地	東京都練馬区
主要部面積等	約 3,700 m ²
事業主体	練馬区都市農業担当部都市農業課
おもな用地	学校

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○区民に農業の魅力と役割を伝え、農に関心を持つ区民の中から都市農業に関わる人材を育て、支え手を必要とする農業者とのマッチングを行う。

【契機】

- 練馬区は 23 区内最大の農地面積を持ち、23 区の農地面積の約 40%が練馬区に存在し、高付加価値農業、市民農園や貸農園経営などが活発に行なわれている。しかし農業従事者は約 20 年間で半減近く減少しており、農地も同様である。
- 「練馬区農の学校」は、こうした状況にある区内農家を支える援農サポート制度のひとつとして、希望する区民に対して農作業に必要な知識と作業の研修を実施するための施設であり、そのための事業制度である。

【経過】

- 2014 年 「練馬区農の学校事業実施要綱」制定
- 2015 年 練馬区農の学校開校(以下、3コース運営)
(初級コース(半年)・中級コース・農とのふれあい・体験コース)
練馬区農の学校を含む高松一・二・三丁目地区の一部が、東京都による「農の風景育成地区」に指定される
- 2016 年 初級コースを通年に変更、中級コース②を設置
- 2018 年 中級コース①・②を中級コースに統合、上級コースを設置

【現況】

- 援農を目指す初級・中級・上級コースの他、都市農業の理解促進を目的とした農とのふれあい・体験コースの 4 コースがある。初級コースを修了した受講生は「ねりま農サポーター」となり、実際に区内の農家でのお手伝いをし、「都市農業」を支える一員となる。
- 農の学校の役割
 - ①農業者の支え手となる人材の育成
 - ②修了生と支え手を必要とする農業者のマッチング
 - ③農とふれあう区民への学びの場の提供
 - ④農の魅力や大切さを区民に伝える情報発信
 - ⑤区民・農業者・支え手の交流機会の提供



練馬区農の学校



授業の様子

【事例の特徴】

〇ねりま農サポーターのマッチング

農業の手伝いについて、支え手を必要とする農業者へ練馬区農の学校を修了したねりま農サポーターの紹介を行っている。

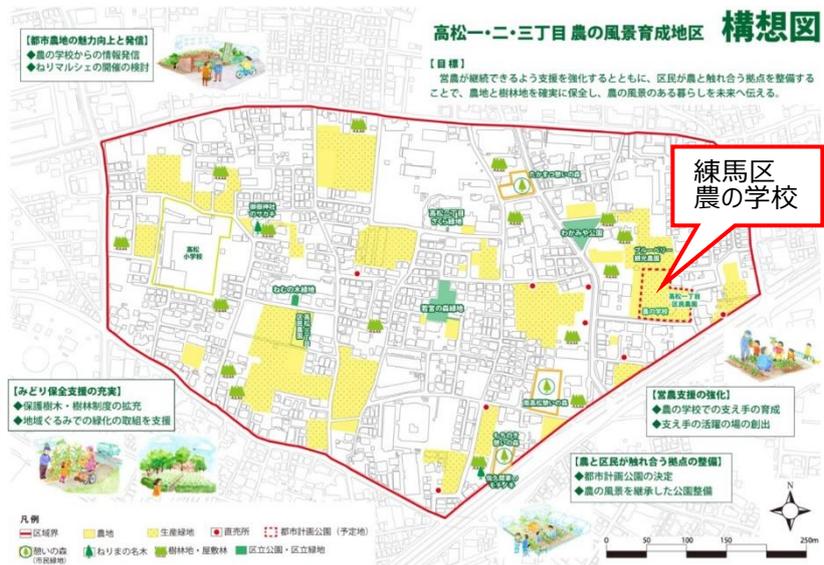


※状況によって流れや内容が変わる場合があります。

マッチングまでの流れ

〇農の風景育成地区

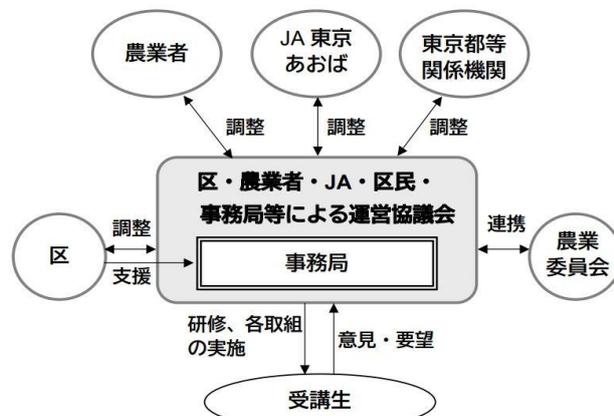
都市の貴重な農地を保全し、農のある風景を維持していくための制度である。高松一・二・三丁目(一部)地区では、営農が継続できるよう支援を強化するとともに、区民が農と触れ合う拠点を整備することにより、農地や樹林地を保全し、農の風景のある暮らしを未来へ伝える。



農の風景育成地区図

〇運営体制

区から事業者へ事業執行や施設管理を事業運営として一括で委託し、実施している。農業指導を行う実技講師を区内農業者、座学講師を区内農業者と学識経験者等が担っている。



運営体制図

【参考資料】

練馬区役所 HP「農の風景育成地区」「練馬区農の学校」『(仮称)練馬区農の学校実施計画』2013年3月『高松一・二・三丁目 農の風景育成地区構想図』、練馬区農の学校 HP、東京都 HP